

青木文庫

— 232 —

明治社會運動思想

下

岸本英太郎編・解説

青木書店

編者略歴

1914年 岡山市に生る

1937年 京都大學法學部卒業

現在 京都大學助教授

著書「社會政策論の根本問題」「日本勞働運動史」
「社會政策論」「日本の勞働問題」

青木文庫

一九五三年五月一五月初版

明治社會運動思想 下

定價百貳拾圓

編者

岸^{きし}本^{もと}英^{えい}太^た郎^{ろう}

發行者

青木春雄
東京都千代田區神田神保町一ノ六〇

印刷者

中内あき子
東京都千代田區飯田町一ノ二三

發行所

東京都千代田區
神田神保町一ノ六〇

株式會社 青木書店

電話東京(29)

一九〇四番
八三二一番

振替東京 三六五八二番

〔青木文庫解説總目錄〕を小賣書店でお請求ください

中光印刷株式會社・印刷

青 木 文 庫

— 232 —

岸本英太郎編・解説

明 治 社 會 運 動 思 想

下

資料日本社會運動思想史

明 治 後 期 第 2 集

青 木 書 店

資料日本社会運動思想史刊行のことは

近代社会運動の歴史がはじまっていろいろ、すでに久しい。わが国においても、労働者農民を中心とする勤労大衆の社会的解放のための諸運動は、資本主義の形成と同時に始まり、その成長とともに発展し、今日すでに数十年のながい歴史をつみあげている。平和・独立・自由をめざすげんざいの日本国民のたたかいは、過去数十年にわたるこれら社会運動・労働者農民運動の経験と成果のうえにたっているのである。

しかるに、このながい歴史的伝統を体系づけ、その貴重な教訓を集約し、げんざいの国民的諸運動に真にやくだつような社会運動史の編さんや記述は、まだ十分になされていない。そうした歴史記述にかくことのできないいくた重要な文献資料の類すらが、まだ完全にまとめられず、かえってますます散逸し、大衆の眼から遠ざけられていくような状態にあるのである。

それでわれわれは、細部におよぶ文献の蒐集整理は将来のこととして、ここにとりあえず、今次敗戦までのわが社会運動の歴史の研究と理解に必要とおもわれる基本資料だけでもいちおう系統的に整理し、公けにしようと思図したのである。

周知のように、わが近代社会運動の歴史は、自由民権運動から明治三〇年にいたる前史の時期、明治三〇年代から第一次大戦までの最初の勃興期、大戦後大正年代における運動の復活開花の時期、昭和年代にはいつてからの全面的な展開期と、今次第二次大戦までに四つの主要な発展段階

をへてきている。そこで、ここでは全体を明治前期・明治後期・大正期・昭和期の四つにわけ、それぞれの時期の運動の歴史資料・とくに運動をみちびき支配した主要思想と主要潮流にかんする諸文献を体系的に編集し、これに適宜解説をくわえつつ、順次刊行することとした。このばあい、今日一般の眼にふれることのむずかしい新聞・雑誌などの論文・声明その他の文書を主にし、まとまった著書・歴史書の類を従とした。

かぎられた人員と能力でなされるこの企画が、日本社会運動の歴史的研究・そのかがやかしい遺産の摂取・今日の運動のいっそうの推進等のために、いくらかでもやくだつところがあれば幸いである。さいごに、読者諸君がげんざい入手しがたい文献資料の所在や蒐集について、何らかの御協力をたまわるよう切に願うする。

一九五五年三月

編纂委員会

凡 例

一 本書「明治社会運動思想」上・下は、明治三十年から四十二年にいたる黎明期日本の労働運動を明らかにする諸論文を、当時の主要な労働・社会主義諸新聞、雑誌から集録し、これを歴史的・問題史的に編集せるものである。本文中のⅠからⅥまでの表題は編者がつけたものである。編集にあたっては、労働運動およびその思想の動きをできるかぎり詳細に明らかにするため、各時期の論文を万遍なく集めることに努力した。

一 明治期の黎明期労働運動およびその思想は、変化がいちじるしく、少数の論文や著作をもって全体を判断することは極めて危険であり、多くの研究がこの危険を犯して誤った判断を下しているのであって、本書はかかる誤謬を訂正する上に役立つことを期待したい。

一 各論文の収録にあたっては、原文に忠実を期したが、傍圈点およびルビ（ルビは若干のこした）は削除し、句読点も読者に読み易きよう若干の変更を施した。明らかに誤字と思われるものは訂正したが、当字や仮名使いはできるかぎり原文にしたがった。

一 本書の編纂は、長年月と多くの人々の援助に負っている。とくに東大明治新聞雑誌文庫の西田長寿氏、東大経済学部図書室、慶応義塾大学図書館、京大経済学部図書室からは貴重な文献の閲読・筆写の便宜を与えられた。紙上をかりて感謝の意を表する次第である。

一 明治期の貴重な文献でその所在不明のものが多く、したがって本書の編集も多くの欠陥を

免れなかった。とくに労働運動の最初の勃興期たる明治三十年から三十二年の間の運動の事態と思想を知るに不可欠の「労働世界」の殆んどを見ることができなかったのは遺憾であった。第一号から第五十号までが大原社会問題研究所に所蔵されていたことは確かであるが、現在その存否は不明である。この期間の労働運動思想は、故内藤赴夫氏の研究「労資調和論者としての片山潜」（大原社会問題研究所雑誌、第三卷第三号）、「労働運動黎明期における片山潜の社会主義思想」（同上、第三卷第四号）によって、解説において補っておいた。

なお、明治四十年六月二日に創刊された片山潜の「社会新聞」も、現在その殆んどを見ることができないのである。

これらの文献の所在を御教示頂ければ、一人編者の喜びにとどまらず、学界の大きな収穫として感謝されるであらう。広く読者の御協力をお願いしたい。

一 編者の解説を巻末に附したが、収録論文多数のため、その一つ一つの内容については殆んど関説することができなかった（解説文中のゴチック体は、本書に収録されている論文である）。全体の動きを素描したにすぎない。原文全部を収録し、大体時代順に配列したから、直接本文にあたっていただければ、明治期日本の労働運動とその思想は十分理解していただけるものと思っている。なお、本叢書中の筆者編「明治社会主義史論」は、本書を補うものとして役立つであらう。併読を希望する。

目次

刊行のことば	三
凡例	五

IV 「日本社會黨」成立前後の社會運動思想 (明治三八年一月—四〇年一月)

吾人の抱負(「光」發刊の辭)	「光」	明治三八・一一・二〇……二五
予の感懷	幸徳秋水	「光」三八・一一・二〇……二七
失業者問題	西川生	「光」三八・一二・二〇……二〇
一波萬波	幸徳秋水	「光」三九・三・二〇……二三
日本社會黨生る		「光」三九・二・二四……二六
日本社會黨に餞す	一同志	「光」三九・四・二〇……三〇
労働者の地位	片山潜	「光」三九・五・二〇……三三
世界革命運動の潮流	幸徳秋水	「光」三九・七・五……三六
日本に社會主義を行ふは安し	片山潜	「光」三九・七・二〇……四一
階級戰爭論	石川四郎	「新紀元」三九・五……四三
階級戰爭論に就て	堺利彦	「光」三九・六・五……五一
「平民新聞」創刊の辭		「平民新聞」四〇・一・一五……六〇

V 革命的サンヂカリズムの擡頭と議會政策との對立（明治四〇年二月―五月）

余が思想の變化……………	幸徳秋水……………	「平民新聞」	四〇・二・五……………	五
社會黨運動の方針……………	堺利彦……………	「平民新聞」	四〇・二・一〇……………	七
議會政策論……………	田添鐵二……………	「平民新聞」	四〇・二・二四、一五……………	六
社會黨員諸君に告ぐ……………	石川三四郎……………	「平民新聞」	四〇・二・一六……………	八
社會黨大會……………		「平民新聞」	四〇・二・一七、一九……………	九
田添鐵二氏の演說要領……………		「平民新聞」	四〇・二・一九……………	七
幸徳秋水氏の演說……………		「平民新聞」	四〇・二・一九……………	七
社會黨大會の成績……………	山川均……………	「平民新聞」	四〇・二・二〇……………	七
歐洲の直接行動……………		「平民新聞」	四〇・二・二三……………	二
勞働者諸君に告ぐ……………	片山潜……………	「平民新聞」	四〇・三・五……………	四
片山先生に告ぐ……………	一勞働者……………	「平民新聞」	四〇・三・七……………	七
一勞働者に答ふ……………	片山潜……………	「平民新聞」	四〇・三・八……………	九
再び片山先生に……………	一勞働者……………	「平民新聞」	四〇・三・一〇……………	三
勞働問題の前途……………	片山潜……………	「平民新聞」	四〇・三・一〇……………	三
直接行動の意義……………	秀湖生……………	「平民新聞」	四〇・三・二三……………	五
總同盟罷工の倫理……………	白柳秀湖……………	「平民新聞」	四〇・三・二四……………	六

社會雜感……………片山 潜……………「平民新聞」 四〇・四・四……一三〇

「平民新聞」廢刊の辭……………「平民新聞」 四〇・四・一四……一三三

VI 社會主義分派の形成と對立の發展 (明治四〇年六月—四二年)

(一) 社會主義分派の形成と對立の激化

「大阪平民新聞」發刊の辭……………「大阪平民新聞」 四〇・六・一……一三七

「社會新聞」創刊の辭……………「社會新聞」 四〇・六・二……一三九

社會主義鄙見……………片山 潜……………「社會新聞」 四〇・九・八、一五……一四〇

東京の社會運動(第一信)……………幸徳秋水……………「大阪平民新聞」 四〇・九・五……一四六

東京の社會運動(第二信)……………幸徳秋水……………「大阪平民新聞」 四〇・九・二〇……一五〇

東京評論(第三信)……………幸徳秋水……………「大阪平民新聞」 四〇・一〇・五……一五二

東京評論(第四信)……………幸徳秋水……………「大阪平民新聞」 四〇・一〇・二〇……一五五

東京評論(第五信)……………幸徳秋水……………「日本平民新聞」 四〇・一一・五……一五七

「社會新聞」と小生等との關係……………堀利彦……………「日本平民新聞」 四〇・一一・五……一六〇

自然の結果(幸徳・堺兩君と予の立場)……………幸徳秋水……………「社會新聞」 四〇・一一・一七……一六九

全國の同志諸君へ……………田添鐵二……………「社會新聞」 四一・三・一……一七三

自然の結果のみ……………片山 潜……………「社會新聞」 四一・三・一……一七六

吾徒今後の方針……………田山鐵二……………「社會新聞」 四一・三・一五……………一七八

白鳥健

(二) 大阪平民新聞Ⅱ金曜會の主張

別子銅山騷擾事件の教訓……………山川 均……………「大阪平民新聞」四〇・六・一五……………一八二
更に一步を進めよ……………「大阪平民新聞」四〇・七・一……………一八七
憲法遵守の拒絶……………「大阪平民新聞」四〇・七・一五……………一八九
社會政策と社會主義鎮壓……………山川 均……………「大阪平民新聞」四〇・八・二〇……………一九一
勞働者の誤解……………森近運平……………「大阪平民新聞」四〇・一〇・二〇……………一九七
ストライキ論……………祿 亭生……………「日本平民新聞」四〇・一一・二〇……………二〇一
總同盟罷工の話……………山川 均……………「日本平民新聞」四〇・一一・二〇……………二〇四
ストライキと法律と警察……………森近運平……………「日本平民新聞」四一・二・五……………二一九
平民協會の綱領を読む……………山川 均……………「日本平民新聞」四一・二・五……………二三五
海南評論……………幸徳秋水……………「日本平民新聞」四一・四・五……………二三八

(三) 社會新聞Ⅱ社會主義同志會の主張

暴動の原因……………「社會新聞」 四〇・六・一六……………二三三
團結と罷業の自由……………片山 潜……………「社會新聞」 四〇・六・一六……………二三五

労働者向上の途	片山 潜	「社會新聞」	四〇・六・二三	二二七
職工の待遇問題	片山 潜	「社會新聞」	四〇・七・二八	二二九
労働組合の發達	片山 潜	「社會新聞」	四〇・八・一一	二四三
天下の労働者諸君に告白す	片山 潜	「社會新聞」	四一・一・一	二四七
東海道遊説日記	片山 潜	「社會新聞」	四一・二・五	二五〇
鑛夫組合結成	鈴木楯夫	「社會新聞」	四一・三・一五	二五四
五月一日	鈴木楯夫	「社會新聞」	四一・五・二五	二五五
日本の社會主義者は何を要求すべきか	片山 潜	「社會新聞」	四一・一一・一〇	二五九
議會と労働者	片山 潜	「社會新聞」	四二・二・一五	二六一
解 說		岸本英太郎		二六五

IV

「日本社會黨」成立前後の社會運動思想

（明治三八年一月—四〇年一月）

吾人の抱負（「光」發刊の辭）

（「光」第一號、明治三八年一月二〇日）

（1）勞働者の自覺

今日の勞働者を此の儘に棄て置かば、其一部は自暴自棄して犯罪人となり、他の一部は絶望して自殺し、残りの部分は豚の如くに愚となり、之れ又早老早死せずんば止まざるべし。此の不幸の勞働者に對する最大の愛は、彼等を教へて其の位地を自覺せしむるにあり。勞働者の自覺！之れ實に社會革新、勞働者救済の最大原動力なり。吾人は勞働者に自覺を與ふるを以て其の抱負の第一たらしめんと欲す。

（2）一種の人類學者

社會主義を評するものは多し、社會問題に就き論議するの士は多し、されど彼等志士論客中貧民勞働者の状態に通ぜるものは少なし。恐らく彼等は南洋土人の状態程も我が東京市貧民勞働者の状態に通ぜざるべし。此の故に彼等の論議や熱誠を缺ぎ彼等の論議や積極的ならず。之れ吾人の頗る遺憾とする所なり。よりて吾人は一種の人類學者となり、社會主義を評し、社會問題を論議する士をして下層の事情に通ぜしむるを以て其の抱負の第二たらしめんと欲す。

（3）普通選舉

社會主義の味方のみならず、敵も亦曰く戦後社會主義は大いに勃興するならんと。然り、され